

きょうと☆いきものフェス! 2023

きょうと生物多様性センター

「きょうと・いきもの講演会」

京都のいきものの面白さを話してもらおう!

2023年10月9日(祝・月)

午後1時から午後4時

京都府立植物園 植物園会館 2階研修室

「きょうと・いきもの講演会」

京都のいきものの面白さを話してもらおう！

司会・コーディネータ

しげはら なつこ
重原 奈津子（きょうと生物多様性センター）

13:00 「いきもの講演会」について

13:10～

「足環をつける調査で見えてくる京都の鳥類の多様な生態」

すがわ ひさし
須川 恒（鳥類標識調査グループ・関西）

まず鳥に足環をつける鳥類標識調査とは何かを紹介します。

つぎに京都にかかわりのある鳥類標識調査として以下の3つを紹介します。

- (1)鴨川のユリカモメ その繁殖地を求めた先におどろく展開がありました。
- (2)宇治川のツバメの集団ねぐら地保護への貢献。
- (3)京都府の鳥オオミズナギドリが集団営巣する冠島で100年間の調査。

最後に、京都府レッドデータブック(鳥類)との関係を紹介します。

13:50～

「生物多様性はなぜ大切か」

ゆもと たかかず
湯本 貴和（きょうと生物多様性センター長）

生物多様性喪失は、気候変動とともに地球環境問題の2本柱です。しかし気候変動に比べて世間の注目度が低いのが実情です。生物多様性という概念はとても複雑で、わかりやすい自然保護や動物愛護と混同されがちです。生物多様性保全は、人間社会が将来的に生き延びるために生態系を動かしている生物たちをできるだけ温存しようという、徹底的に人間中心の考え方です。今回はとくに「生物多様性の指標的価値」についてお話します。

14:40 ~

「虫こぶ研究からはじまった昆虫食」

たけだ せいじ
武田 征士

(京都府立大学農学生命科学科細胞工学研究室
・未来食研究開発センター株式会社)

「虫こぶ」は、昆虫が植物に作る、食糧と住居を兼ね備えた特殊な組織です。虫が植物の遺伝子を操作し、器官形成システムをハイジャックして、このような特殊器官を作る事が分かってきています。この研究を通し、植物と虫は非常に相性が良く、これをうまく使うことで、環境・経済コストをかけない食糧生産システムができるのでは？という発想を得ました。現在はそのシステムを構築し、設立したベンチャーを通じた社会実装に向けて研究を進めています。

15:20 ~

「京都ゆかりの植物を守る — キブネダイオウと芦生の森の希少種保全を例に」

さかくち しょう た
阪口 翔太

(京都大学大学院人間・環境学研究科)

京都府に記録のある 2800 種近くの維管束植物のうち、約 30%の種が絶滅の危機に瀕しています。絶滅危惧種の保全では自生環境の改善が基本となりますが、個体数が著しく減少した種については自生地の外で個体の育成を行う「生息域外保全」が有効な保全手段となります。本講演では、府内で実施してきた生息域外保全の事例として、貴船・雲ヶ畑地区のキブネダイオウと南丹市美山町・芦生の森の希少種保全についてご紹介します。



↑ ドングリ調査を
はじめます

きょうと生物多様性センター

電話：090-4496-3887 メール: contact@kyotobdc.jp

ホームページ： <https://www.pref.kyoto.jp/biodic/index.html>

X(旧 Twitter): <https://twitter.com/KYOTOBiodiverse>

【本部オフィス】〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町 京都府立植物園 植物園会館 2 階

【交流オフィス】〒606-8511 京都市左京区松ヶ崎堂ノ上町 7-2 京都市左京区役所 2 階 14 窓口

開館日：毎週月曜日、水曜日及び金曜日 午後 1 時～午後 5 時（祝日・休日・年末年始を除く）

先生方の自己紹介と好きな生き物

須川先生

<鴨川のユリカモメ>

1947年生まれ。
鳥類標識調査グループ・

関西代表世話人。日本鳥学会・日本鳥類標識協会会員。京都・冠島調査研究会会長。龍谷大学里山学研究センター研究員。京都府の生物多様性にかかわる委員を多く経験し、いくつか続く。



湯本先生

<マルハナバチとそれが訪れる植物>

日本生態学会前会長、元京都大学霊長類研究所所長。京都大学大学院理学研究科博士後期課程植物学専攻修了（理学博士）。日本各地や熱帯地域で「植物と動物の共生」や「人間と自然の相互作用」の研究をしてきました。



武田先生

<鳥が羽を広げたような
花卉をもつサギソウ>

大分県大分市生まれ。京都大学・同大学院修了後、JIC (UK)、NAISTを経て現職。植物（特に花）の器官と虫こぶの研究を進めています。最近では環境負荷の少ない食料生産システムの研究にも着手し、ベンチャー起業も設立しました。



阪口先生

<野辺の
アキノキリンソウ>

京都大学大学院人間・環境学研究科助教。博士（農学）。専門分野は植物多様性学・集団遺伝学・系統地理学です。近年は遺伝分析を活用した絶滅危惧植物の保全遺伝学に取り組んでいます。

重原 奈津子

<アベマキ>

広島県生まれ。
きょうと生物多様性センター職員。
京都大学大学院地球環境学舎にて博士号取得（地球環境学）。専門は景観生態学で、休耕田の復田プロジェクト等にも関わる。生物多様性×地方創生コンサル一般社団法人MITにて特別研究員も務める。

